

2024年10月29日 作成

環境活動レポート

レポート対象期間 2023年10月1日～2024年9月30日（第50期）



魚野川源流

群馬シール 株式会社

《ご挨拶》

群馬シール株式会社は1975年の創業以来、工業用・食品用粘着ラベルを中心とした印刷業として歩んでまいりました。近年、お客様が印刷製品に求める要求事項として、「品質」「コスト」に加え「環境」に配慮した製品づくりが重要視されてきております。加えて、企業としての社会的責任においても、地球環境保全の取り組みを積極的に進めていく行動が求められております。当社は、お客様や地域の皆様を始めとする社会から信頼をもって頂ける企業を目指すべく、次頁の環境方針を基に環境活動を展開し、地球に優しい企業としての新たな一歩を歩み出しました。

以下、「環境活動レポート」としての取り組みをまとめましたので、私達の取り組みをご高覧の上、ご指導、ご指摘をいただき次の環境活動に活かしていきたいと存じます。

群馬シール 株式会社
代表取締役社長
石原 雅之

《目次》

1. 環境経営方針	P-2
2. 事業活動の規模(対象範囲)	P-3
3. EA21推進体制	P-4
4. 環境目標とその実績	P-5
5. 環境活動計画の取組みと評価、次年度の取組み内容	P-6
6. 環境関連法規制の遵守	P-7
7. 代表者による全体評価と見直しの結果	P-7

1. 環境経営方針

〔基本理念〕

群馬シール株式会社は、地球環境保全が重要課題であることを認識し、またその活動が企業として求められる社会的責任であることを自覚し、経営における課題とチャンスとを踏まえ、事業活動における「環境負荷の低減」と「資源の有効活用の取組み」の継続的な改善に努め、社会への責任と役割を果たしていきます。

1. 二酸化炭素排出量削減の為、ガソリン使用量の削減・電気使用量の削減を中心とした省エネルギーに努めます。
2. 廃棄物削減の為、製品の効率的な生産と紙資源等の再使用・再生利用の向上に努めます。
3. 水使用量の抑制に努めます。
4. 環境負荷を低減する製品・材料・副資材・備品の購入を推進します。
5. 当社の事業活動において、適用される環境に関する法令及び業界の自主基準を遵守します。
6. 全従業員が環境経営方針を理解し、環境教育により環境に関する意識の向上を図ります。
7. 環境管理に関する情報は、社内外に公表します。

制定日：2010年4月26日

改訂日：2019年4月26日

群馬シール株式会社
代表取締役 石原雅之

2. 事業活動の規模(対象範囲)

1. 事業所及び代表者名

群馬シール 株式会社
代表取締役社長 石原 雅之

2. 所在地

〒379-2215 群馬県伊勢崎市赤堀今井町2丁目1101-9

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 代表取締役社長 石原 雅之

環境管理責任者 : 次長 山田 智

担当 : E A 2 1 事務局 木村 智子
竹内 友美

TEL : 0270-62-8551

FAX : 0270-62-7759

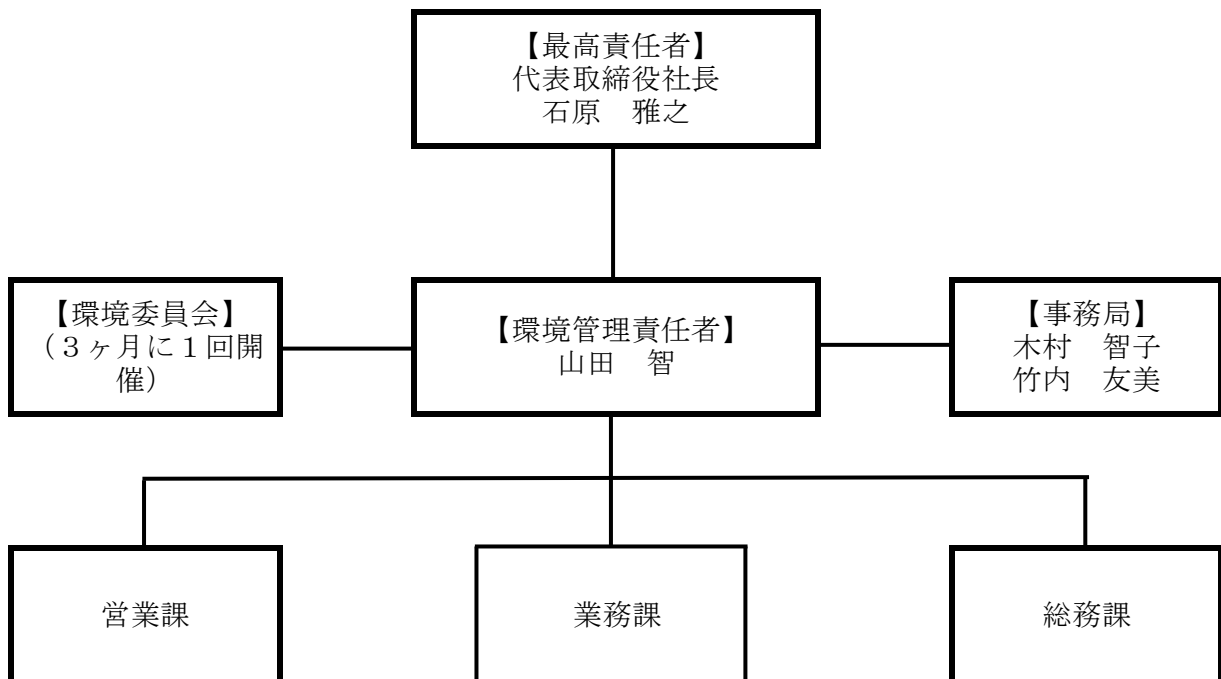
4. 事業の内容

シール、ステッカーの企画・設計・販売

5. 事業規模

活動規模	単位	2021年度 (48期)	2022年度 (49期)	2023年度 (50期)
年商	百万円	188	199	200
従業員数	人	12	11	11
建築面積	m ²	190	190	190

3. EA21推進体制



職名	役割
最高責任者	【代表取締役 石原 雅之】 ①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 ②エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む）を準備する。 ③環境方針を制定する。 ④エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境方針・環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。
環境管理責任者	【山田 智】 ①エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。 ②エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
事務局	【木村智子・竹内友美】 ①事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。
環境委員会	最高責任者・環境管理責任者・事務局で構成し、3ヶ月に1回環境管理責任者が召集する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認めた者は出席することができる。必要な場合、臨時に環境委員会を開く事がある。

4. 環境目標とその実績

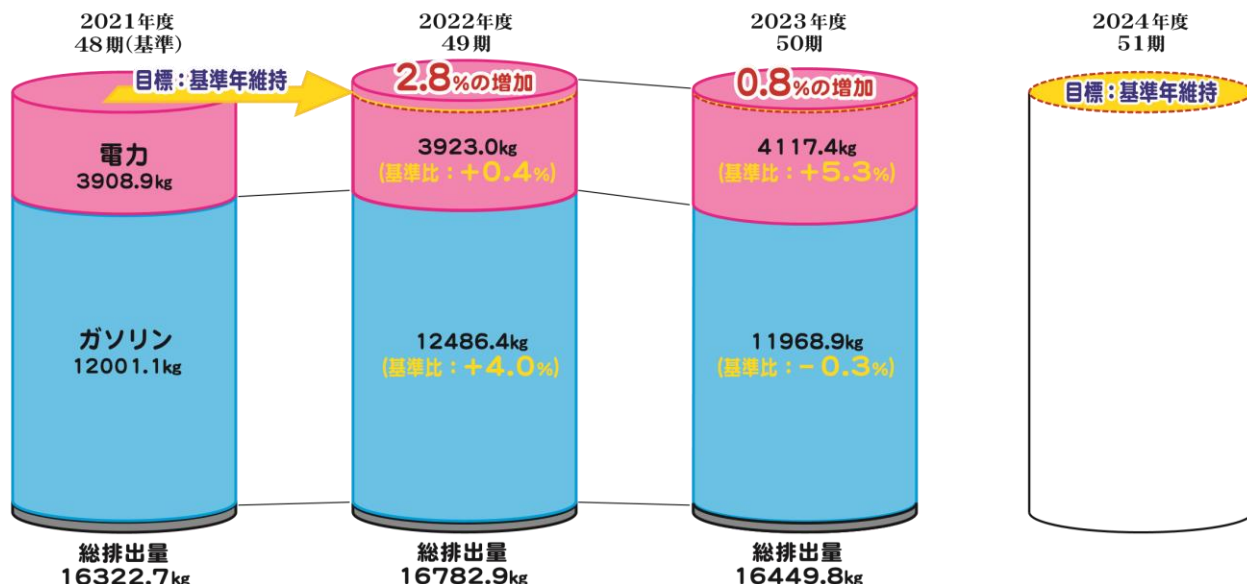
当社に於ける48期(2021/10/1～2022/9/30)の環境負荷実績を把握し、
49期～51期迄の目標を下記の通り定め活動を開始した。
50期は48期実績に対して、二酸化炭素排出量0.8%増加、廃棄物排出量18.7%削減、
水資源投入量8.8%の削減となった。

環境目標	48期	49期		50期		51期
	実績	目標	実績	目標	実績	目標
①二酸化炭素排出量の削減(kg)	16322.7	48期実績に対して現状維持	× 2.8%の増加 16782.9	48期実績に対して現状維持	× 0.8%の増加 16449.8	48期実績に対して現状維持
②廃棄物排出量の削減(kg)	2614.2	48期実績に対して2.0%削減	○ 23.0%の削減 2013.3	48期実績に対して3.0%削減	○ 18.7%の削減 2124.2	48期実績に対して4.5%削減
③水資源投入量の削減(m³)	77.3	48期実績に対して現状維持	× 1.7%の増加 78.6	48期実績に対して現状維持	○ 8.8%の削減 70.5	48期実績に対して現状維持
④自らが提供する製品及びサービスに関する項目	品目の拡大:0件 提 案 :1件	環境活動に関連した製品の営業活動を行う。	品目の拡大:1件 提 案 :1件	環境活動に関連した製品の営業活動を行う。	品目の拡大:1件 提 案 :1件	環境活動に関連した製品の営業活動を行う。

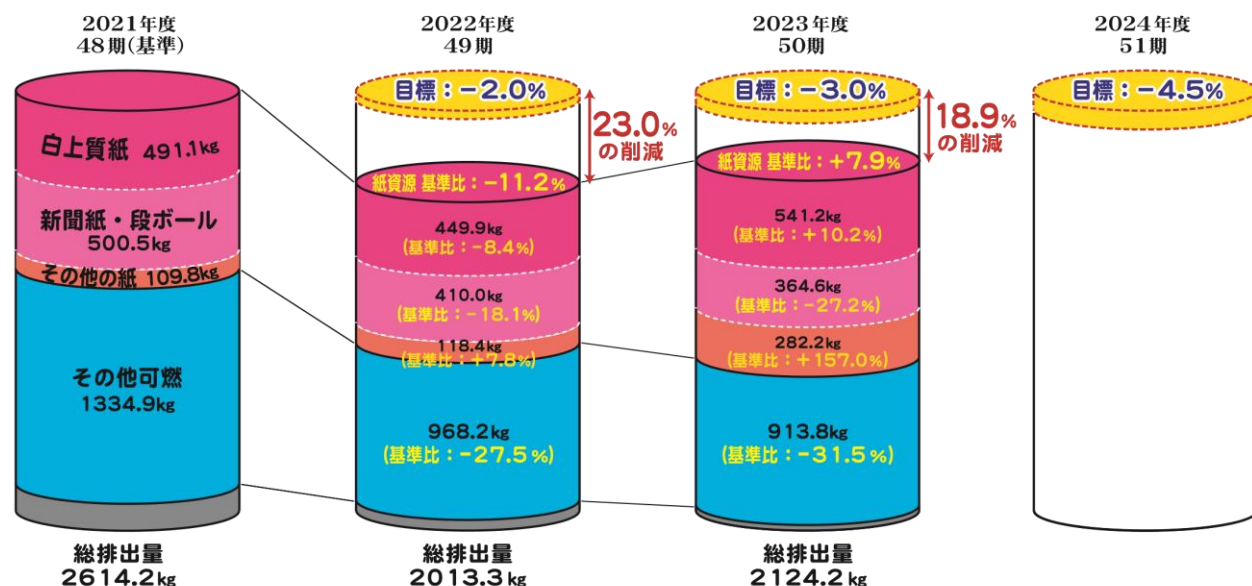
※購入電力の二酸化炭素排出係数0.486kg-炭素CO2/kWh

(㈱グリムスパワーホームページより、2021年度実績 調整後排出係数)

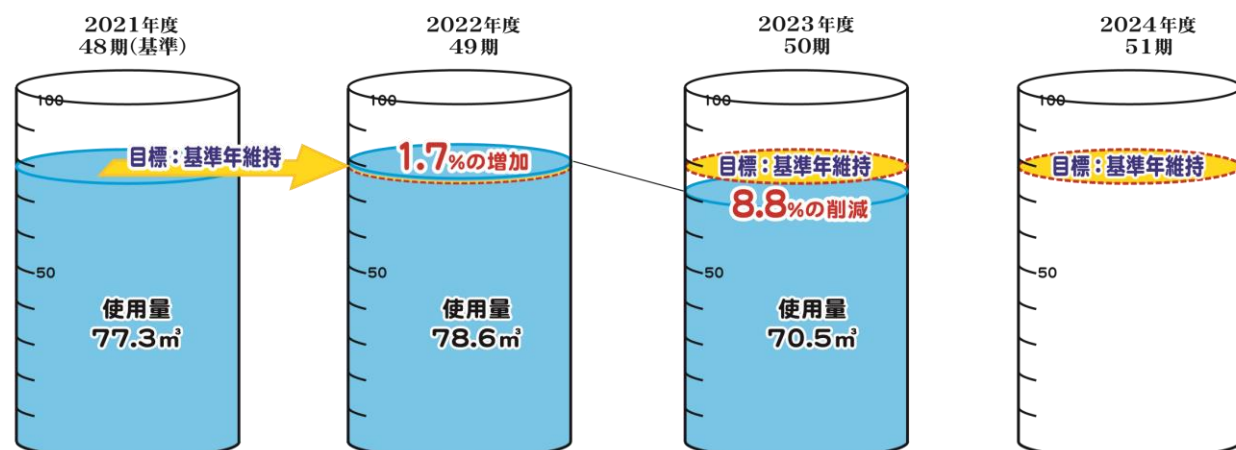
CO2削減(活動推移)



廃棄物削減(活動推移)



水削減(活動推移)



5. 環境活動計画の取組みと評価、次年度の取組み内容

*50期（2023年10月～2024年9月）の1年間の活動を基に、取組みと評価をしております。

取組み計画	環境活動計画の取組み結果の評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 『目標』 48期に対し、現状維持 『実施事項』 ①電気使用量の監視 ②エアコン清掃の実施 ③エコドライブ推進 ④社用車の点検・整備 ⑤原因分析と削減方法の検討	0.8%の増加となり目標値を達成できなかった。電力は7月～9月の猛暑の影響が大きかったが1.4%削減できた。ガソリンは0.3%の削減となった。 次年度の取組み内容 特にガソリン、電力を中心に抑制する。
2. 廃棄物排出量の削減 『目標』 48期に対し、3.0%削減 『実施事項』 ①分別ルール of 徹底 ②廃棄物置場の整備 ③再使用の推進 ④原因分析と削減方法の検討	18.7%の削減となり目標達成。その他可燃ゴミを削減できたことが大きい。ダンボールの再使用率は前年度より3.0ポイントの向上となった。 次年度の取組み内容 その他可燃を中心に抑制する。
3. 水資源投入量の削減 『目標』 48期に対し、現状維持 『実施事項』 ①毎月のメータの確認(漏水防止) ②トイレの節水 ③原因分析と削減方法の検討	8.8%の大幅な削減となり目標達成できた。トイレを洋式にしたことによる。 次年度の取組み内容 引き続きトイレの節水を中心に取り組む。
4. 自らが提供する製品及びサービスに関する項目 『実施事項』 ①「環境負荷物質」および「グリーン調達」に関する管理 ②自社エコの取組	①顧客要求通り対応でき、管理もしっかり行なわれていた。(47件/年) ②品目の拡大:1件、提案:1件を行った。 次年度の取組み内容 ①引き続き顧客要求に従い適切に管理する。 ②社内での活動の活性化を行い、提案件数を増やす。

6. 環境関連法規制の遵守

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	当社の対応	遵守状況
浄化槽法	11条検査実施、定期点検	遵法
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産廃業者との契約締結、マニフェストの交付状況の報告・照合確認	遵法
消防法	消火器の定期点検の実施	遵法
フロン排出抑制法	第一種特定製品の3か月毎簡易点検	遵法
自動車リサイクル法	廃棄時に指定業者へ処理依頼	遵法
グリーン購入法	環境物品等の購入	遵法
顧客の環境要求事項	要求事項遵守	遵法
家電リサイクル法	廃棄時に指定業者へ処理依頼	遵法

2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2024年10月24日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

7. 代表者による全体評価と見直しの結果

今年度(50期 2023年度)の環境目標活動は「CO2:0.8%の増加」「廃棄物:18.7%の削減」「水使用量:8.8%の削減」となり、CO2は目標達成に至らなかった。CO2に関して、電力使用量自体は、基準年比▲1.4%と削減できているので、来年度はCO2排出係数による増加分を上回る削減値を実現することが課題。

ガソリン使用量は、地道なエコドライブ推進活動により、着実に削減出来ている。廃棄物に関しては、次年度も効率的な生産活動を進め、無駄な製品廃棄を如何に出さないかがポイントになってくる。

昨年に引き続いて、カーボンニュートラルの取組みを始める顧客への必要な対応を前向きに行っていく。